

長野県の庭園

この資料は、公開用としてではなく、自己使用用として、「おにわさん」を基に作成しました。参考用として順次改訂して参る所存です。

<https://oniwa.garden/category/%e7%94%b2%e4%bf%a1%e8%b6%8a%e5%8c%97%e9%99%b8%e5%9c%b0%e6%96%b9%e3%81%ae%e5%ba%ad%e5%9c%92/%e9%95%b7%e9%87%8e%e7%9c%8c%e3%81%ae%e5%ba%ad%e5%9c%92/>

長野県コード 36

10 【東信州】軽井沢・佐久・小海・小諸・上田

20 【諏訪】茅野・諏訪の庭園 (13 件) 塩尻市・辰野町の庭園 (4 件)

21 【諏訪】茅野

22 【諏訪】諏訪 (下諏訪)

23 【諏訪】上諏訪

25 【諏訪】辰野

26 【諏訪】塩尻

30 【北信濃】長野市の庭園 (10 件) 須坂市・小布施・湯田中・戸隠の庭園 (8 件)

31 【長野】

35 小布施

36 須坂

40 【松本平】松本市・安曇野の庭園 (7 件)

41 松本

45 安曇野

50 【伊那路】飯田・伊那・駒ヶ根の庭園 (3 件)

51 飯田

53 駒ヶ根

55 伊那

57 飯島

60 【木曽】木曽の庭園 (3 件)

10【東信州】軽井沢・佐久・小海・小諸・上田

準備中

20【諏訪】茅野・諏訪の庭園（13件） 塩尻市・辰野町の庭園（4件）

<https://oniwa.garden/category/%e7%94%b2%e4%bf%a1%e8%b6%8a%e5%8c%97%e9%99%b8%e5%9c%b0%e6%96%b9%e3%81%ae%e5%ba%ad%e5%9c%92/%e9%95%b7%e9%87%8e%e7%9c%8c%e3%81%ae%e5%ba%ad%e5%9c%92/%e8%8c%85%e9%87%8e%e3%83%bb%e8%ab%8f%e8%a8%aa%e3%81%ae%e5%ba%ad%e5%9c%92/>

<https://oniwa.garden/category/%e7%94%b2%e4%bf%a1%e8%b6%8a%e5%8c%97%e9%99%b8%e5%9c%b0%e6%96%b9%e3%81%ae%e5%ba%ad%e5%9c%92/%e9%95%b7%e9%87%8e%e7%9c%8c%e3%81%ae%e5%ba%ad%e5%9c%92/%e5%a1%a9%e5%b0%bb%e3%81%ae%e5%ba%ad%e5%9c%92/>

茅野市観光協会 <https://www.tateshinakougen.gr.jp/>

2022/08/15 15:26 資料請求 405 Not Allowed エラーコード

21【諏訪】茅野

11 笹離宮（蓼科笹類植物園） 茅野

<https://oniwa.garden/sasarikyu-garden-%e7%ac%b9%e9%9b%a2%e5%ae%ae/>

<https://tateshina-sasa.com/sasarikyu/>

<https://navi.chinotabi.jp/spot/3012/>

<https://www.nagano-museum.com/info/detail.php?fno=160>

“桂離宮”の昭和の大修理を担当した建築家・安井清の設計による回遊式数寄屋庭園と、世界一を誇る笹専門の植物園

【冬季休園】

「笹離宮」（ささりきゅう）は八ヶ岳・蓼科高原にあるササ類専門の植物園。園内の和風建築・数寄屋風建築や庭園の設計は京都の名園『桂離宮』の昭和の大修理や国宝の茶室『如庵』の移築などを手掛けた伝統建築家・安井清氏によるもの。

2019年夏の信州旅行、松本の施設でこのパンフレットを見つけて（それまで知らなかった）。『笹離宮』という名前もですが…そのパンフレットの冒頭のフレーズ『完成しない庭園を目指して』にめっちゃ惹かれ、予定に無かったけど足を運びました！

八ヶ岳という、普段の自分の行動パターン（公共交通機関＋レンタサイクル）では行きづらい場所だったけれど、今回はレンタルバイク（スクーター）で行動していたことも功を奏し…ついでに言うと先輩が携わった八ヶ岳のおされなカフェ『デリ&カフェ K』にも近かったのでもちろん良かった。

パンフレットを入手した施設で「ああ最近できた施設ですね」と言っていたのでここ1、2年で開かれた施設だと思ってたけど、運営する財団法人「蓼科笹類植物園」は2009年に設立されたそうなので、完成から10年程度は経っているみたい。公式サイト情報は2015年、SNSは2014年までしか情報がないのでいつから公開されているかはわからないけど…。

その名の通り“笹のための離宮・庭園”で、国内のみならず海外からも収集した120種類の笹が見られます（世界一のササ類植物園を目指しているそう）。

元は静岡県の『富士竹類植物園』（ここも今知ったけど気になる…）からの「地球温暖化の影響で弱り始めた笹類を、寒冷な蓼科の地に移植させたい」という要請から始まり、設計に携わるようになった安井清氏によって“笹類植物園”のみならず笹を活かした“回遊式数寄屋庭園”という構想に広がったそう。

庭園は“植物園エリア”と“数寄屋庭園エリア”と大まかには2つのエリアで構成されています。

まずは“数寄屋庭園エリア”。安井清さんの設計による和風建築「清風萬里館」、茶室「箬庵」、待合「翠陰」や石庭、そして京都から運ばれた鞍馬石も使われた飛び石や延段——という和風庭園の中で、普段は苔や芝生で表現されそうな部分にここでは笹が取り入れられているのがとてもユニーク！

そして園内奥に位置する“植物園エリア”では右から左まで様々な種類のササ類が見られます。その森の中には八ヶ岳を表現した築山や、笹の葉による笹葺き屋根の縄文式竪穴住居、そして京都府・大山崎の国重文『酒解神社』の神輿庫を模したという板倉「神坐」などが配されています。

たまたまパンフレットを見つけれなかったら訪れなかった場所だけれど——八ヶ岳のロケーション含めてすごく良かった。笹をここまで意識して見たのは初めて…“笹好き”となるとニッチだと思うけど（笑）、現代和風建築好きも見て楽しめる空間！

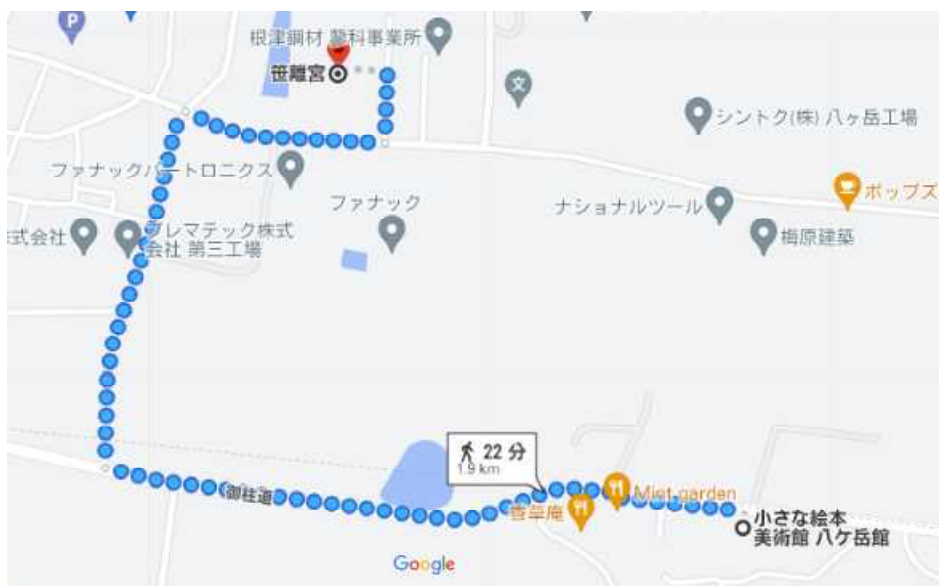
自分が訪れた時も（決して多くはないけど）何組かの方が回遊していらっしやっただけ、駐車場には京都ナンバーの車もあって——やはり庭園の本場、京都の方のアンテナの張り方はすごいなとも感心！また行きたい。

アクセス

JR中央本線 茅野駅より路線バス・美濃戸口線「八ヶ岳小さな絵本美術館前」バス停車 徒歩約25分

茅野駅から約9.5km。レンタサイクルはあるけど標高300m近く登ります…

〒391-0011 長野県茅野市玉川宇原山 11400 番地 1017



12 フジモリ茶室（高過庵・空飛ぶ泥舟・低過庵）・神長官守矢史料館 茅野

<https://oniwa.garden/jinchokan-takasugian-%e9%ab%98%e9%81%8e%e5%ba%b5-%e7%a9%ba%e9%a3%9b%e3%81%b6%e6%b3%a5%e8%88%9f/>

<http://www.city.chino.lg.jp/www/contents/1000001465000/>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A5%9E%E9%95%B7%E5%AE%98%E5%AE%88%E7%9F%A2%E5%8F%B2%E6%96%99%E9%A4%A8>

高台に建つ独特の3つの茶室『フジモリ茶室』——建築史家・藤森照信さんが地元到手掛けたかわいい建築群

茅野市出身の建築家、建築史家であり江戸東京博物館の館長・藤森照信さんが地元到手掛けた建築群。

独特な建築をいくつも生み出している藤森照信さん。個人的には静岡県にある『秋野不矩美術館』、『ねむの木こども美術館どんぐり』でその存在を知り、渋さとかawaiiさが入り混じった藤森作品に衝撃を受け——それまで興味が無かった“建物、建築”に興味を持つきっかけになりました。

全国各地で庭園も見っていますが、藤森建築をはじめ色んな建築も観に行っています。日本庭園を併設している広島県の『神勝寺寺務所』を掲載していましたが、何度も足を運んでいるこの場所も掲載します。お茶室だし。2017年秋に新作『低過庵』が登場したので、再訪しました！

■神長官守矢史料館

神長官守矢史料館（じんちょうかんもりやしりょうかん）は藤森照信さんの建築家としてのデビュー作。江戸時代まで諏訪大社上社の神長官を務めていた「守矢家」の古文書・史料を

保存・展示する為に造られた公共の博物館で、史料館前の庭園は小口基實さん（木曾『興禅寺庭園』の2つの枯山水庭園の作庭者）が手掛けたもの。武田信玄などの武田家や真田家から送られたという文書が保存・公開されています。

ちなみに敷地内に建つ『神長官守矢家祈祷殿』は茅野市指定文化財（建造物）、その他敷地内には『神長官裏古墳』という茅野市指定史跡の古墳も。

■空飛ぶ泥舟、高過庵、低過庵

史料館から徒歩で4、5分程坂を登った高台に同じく藤森照信さんの手掛けた茶室『空飛ぶ泥舟』（そらとぶどろぶね）と『高過庵』（たかすぎあん）、そして2017年秋に加わった新作『低過庵』（ひくすぎあん）があります。

基本はいずれも外観のみの見学ですが、『空飛ぶ泥舟』は完成した2010-11年に掛けてはJR茅野駅の前の広場で展示され予約制で中に入ることができました（また2013年に「あいちトリエンナーレ」で展示された際も1日何組か見学することができました）。茅野駅でもあいちでも現在の場所でも見た大好きな茶室。また何かのイベントで入れる機会があるかなー？

【追記】2019年秋より、内部は非公開だったこれらの茶室の内覧イベントが“ちの観光まちづくり推進機構”「ちの旅」主催でスタートします！

■『フジモリ茶室』プレミアムガイド | ちの旅

やはり人気のように受付開始からすぐに2019年分の受付を終了してしまったようです…入ったことない高過庵、低過庵もいつか入ってみたいな～。なお『低過庵』ではこれ以外にも地元では（藤森先生に関連し）不定期でお茶会が催されていたそうで、そのお茶の先生をされている方の庭園も後日別途紹介予定！

2017年に訪れた時まではそこまで他の方とすれ違う場所ではなかったけれど、2019年に訪れた時は結構他にも見学者が居た！あと毎回訪れて思うけど、茶室前の草花も少しずつ変化があるんですね。高台からの茅野の街の眺めもすごく好き。茶室の中から眺めたらそれはまた素晴らしい風景なんだろうなあ。

アクセス

JR中央本線 茅野駅より約3km（駅及び駅近くのホテルにレンタサイクルあり）

上諏訪駅より路線バス「上社」バス停下車 徒歩約10分

〒391-0013 長野県茅野市宮川 389-1



22【諏訪】諏訪（下諏訪）

21 本陣岩波家庭園 下諏訪

<https://oniwa.garden/honjin-iwanami-house-garden-%e6%9c%ac%e9%99%a3%e5%b2%a9%e6%b3%a2%e5%ae%b6%e5%ba%ad%e5%9c%92/>

<https://shimosuwaonsen.jp/item/764/>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%8B%E8%AB%8F%E8%A8%AA%E5%AE%BF>

中山道・下諏訪宿の本陣だった建物に残る、江戸時代中期の作とされる庭園。素晴らしい庭園！

アクセス

中央本線 下諏訪駅より徒歩 12 分」



22 慈雲寺庭園 下諏訪

<https://oniwa.garden/jiunji-temple-%e6%85%88%e9%9b%b2%e5%af%ba%e5%ba%ad>

%e5%9c%92/

<http://jiunji-shimosuwa.com/>

<https://shimosuwaonsen.jp/item/757/>

タイプの異なる 3 つの名園。武田信玄作庭説もある池泉庭園に京都・植音が手掛けた石庭、小口基實作庭の枯山水庭園

「白華山 慈雲寺」（じうんじ）は諏訪大社下社春宮から程近くにある、戦国時代には武田信玄により中興開基された寺院。本堂裏の池泉庭園は武田信玄の命によるとも伝わり、また本堂・書院前にはそれぞれ京都の造園会社・植音さん、長野の作庭家・小口基實さんにより手掛けられた枯山水庭園“帰錫庭”や書院庭園が広がります。

2019 年夏、松本アウェーからの信州庭園巡り。以前からここはオススメされていたのですが想像以上に素晴らしかった…！参道のアプローチの杉林から雰囲気は幽玄でとても良くて——アジア系のカップルが写真撮影してて。この日泊まった上諏訪のゲストハウスも殆どがアジア系の若者だったんだけど、訪日客にも既に有名なんだと感じた。

慈雲寺の創建は 1300 年（正安 2 年）。鎌倉の大寺院『建長寺』の住職も務められた一山一寧国師により、諏訪大社下社の神官の最高位“大祝”を務めた金刺満貞を開基として創建。一山一寧国師は地元の中国にならって日本初の八景“諏訪八景”を選定。この慈雲寺も“慈雲晚鐘”として選定されています。

その後、京都『建仁寺』の住職も務めた鎌倉～室町の著名な禅僧のひとり・雪村友梅禅師も慈雲寺に入るなど信州を代表する寺院の一つとして発展。

戦国時代には甲斐『恵林寺』の住職も務めた天桂玄長禅師が入り、その縁で武田信玄の援助により境内が整備。現在でも寺紋には武田菱が用いられています。ただし武田信玄により整備された伽藍はその後焼失、現在残る本堂や山門は江戸時代中期～後期に再建されたもの（下諏訪町指定有形文化財）。

その他、天桂禅師お手植えとされる樹齢 400 年以上のアカマツは下諏訪町指定天然記念物で高島城を築いた日根野織部正高の供養塔も町文化財、また室町時代の梵鐘が長野県宝となっています。

本堂に掲げられている扁額は一山禅師に帰依していた後宇多法皇による筆…などなど、所蔵されている仏像や前述の町指定文化財の本堂や山門の棟梁まで判明してリーフレットに紹介されている（＝クリエイターを尊重している？）のがこのお寺のユニークなところの一つ。本堂は立川流工匠・初代立川和四郎富棟の弟の子・上原市蔵正房。山門は大隅流工匠・村田長左衛門矩重。そして庭園の作庭者についてもやはり説明があります。

■帰錫庭（1・4～11 枚目）

本堂正面の石庭“帰錫庭”（きしゃくてい）の作庭は神戸・祥福寺僧堂師家の河野太通老師の

作庭で、築庭の施工は京都の植音によるもの。高野山金剛峯寺の『蟠龍庭』を思い出す広大な回遊式枯山水庭園は別名を“釈迦十大弟子の庭”と言われ、修行のための地方伝道から帰るお釈迦様の弟子たちの様子を、四国・四万十川源流域の巨石・銘石を用いて表現したもの。

で、京都の植音さん。名前を認識したのは初めてなのですが、明治～大正期には七代目小川治兵衛（植治）とも共同で作庭に携わっていた実績もあり、当サイトで紹介済みの庭園で言うと、妙心寺塔頭の『春光院庭園』を手掛けられているそう。京都府の長安寺は福知山の『長安寺庭園』（重森完途作庭）のことかなあ？

あと以前安価を理由に泊まった京都の旅館のお庭が良くて気になっていたのだけど…そこも実績にあったので後日紹介することにする！

■池泉庭園（12～15 枚目）

最初の作庭は鎌倉時代に一山一寧禅師とも、室町期に武田信玄とも伝わる古庭園で、現在の姿に整えられたのは江戸時代後期の 1837 年（天保 8 年）。大きな亀島の浮かぶ池泉鑑賞式庭園で、その歴史から言っても文化財指定を受けていないのが意外。

■書院庭園（19～21 枚目）

で、最後に書院前にも苔の美しい枯山水庭園があります。こちらはお寺のパフレットには情報がないけど小口基實さんの実績一覧によると 2004 年に作庭（改修）されたもの。横たわった苔むした巨石も、石橋から蓬萊山を眺める景色の移ろいも素晴らしい。規模は一番小さいけど、ほんとにはこれだけでも見る価値あるぐらい…。小口造園は 2000 年代に書院庭園の他にも参道や境内の整備なども担当されたそう。

という感じで見所がとて多いお寺です。松本～諏訪あたりを旅行する際は是非立ち寄ってほしい！

アクセス

JR中央本線 下諏訪駅より徒歩 20 分弱

下諏訪駅より路線バス「宮の上」バス停下車すぐ（本数少ない）

〒393-0005 長野県諏訪郡下諏訪町東町中 606



23 柿蔭山房（島木赤彦住居） 下諏訪

<https://oniwa.garden/shiinsanbo-%e6%9f%bf%e8%94%ad%e5%b1%b1%e6%88%bf/>
<https://shimosuwaonsen.jp/item/766/>
<https://www.82bunka.or.jp/bunkazai/detail.php?no=1478&seq=0>

“アララギ派”歌人・島木赤彦の旧宅。江戸時代後期の書院造建築と樹齢 300 年～のマツが見どころ。下諏訪町指定文化財

【土日祝のみ開館】

「柿蔭山房」（しいんさんぼう）は短歌雑誌「アララギ」を中心とした近代短歌の集団“アララギ派”のリーダーも務めた歌人・島木赤彦が過ごした旧宅。江戸時代後期に建てられた茅葺屋根の主屋および樹齢 200 年～ 300 年以上とされるアカマツが下諏訪町指定文化財となっています。

2019 年夏のアウェー松本戦からの信州の庭園巡り。上諏訪と下諏訪の間の文化財建築にも立ち寄りました。諏訪湖沿いの現・甲州街道ではなく山の中腹にある旧甲州街道は現在も“旧街道”の面影を残しており、柿蔭山房から徒歩 5 分ほどの場所には同じく歴史的建造物の『橋本政屋』（13-14 枚目）があります。いずれも高台から諏訪湖を見下ろす絶景の場所！

島木赤彦の本名は久保田俊彦。久保田家は高島藩に仕え江戸時代初期からこの場所で武士をしながら農業も行っていたそう。この茅葺の主屋は江戸時代後期の文化・文政年間（1804～1929 年）頃の建築と推定されており、内部が書院造になっていることが士族屋敷としての特徴を表しています。

そして島木赤彦は大正時代に東京のアララギ発行所からこの家に帰郷し、自ら「柿蔭山房」を名づけこの邸宅を拠点として活動をしたそう。名前の由来はこの地では柿の木が多く栽培されていたそうで、庭園にも大きな柿の木がありたびたび自らを“柿の村人”“柿村舎”などと称したことから。柿についての歌も残しています。

この邸宅のもう一つの見どころは樹齢が 200 数十年とも、樹齢 300 年とも言われる赤松。甲州街道道中でも有数のマツの大木とも言われたとか。

庭園にはそれ以外にも二百種以上の植物が植わっているそうで、今回は夏椿が沢山花をつけていた。歌人の邸宅はどこへ行っても多くの植物が見られるのは、季節の移ろいを感じることで創作意欲を湧き立たせるためなのかな。

結構大きくなっている植物が多く、池泉庭園の石組みが隠れて見えない状態ではあるけど…また近くへ行った際には立ち寄ってみたい。



アクセス

JR中央本線 下諏訪駅・上諏訪駅より徒歩 30 分（約 2.5km）

下諏訪駅・上諏訪駅より路線バス「高木下」バス停下車 徒歩 4 分

〒 393-0033 長野県諏訪郡下諏訪町高木 9180

24 聴泉閣かめや庭園 下諏訪

<https://oniwa.garden/chosenkaku-kameya-garden-%e8%81%b4%e6%b3%89%e9%96%a3%e3%81%8b%e3%82%81%e3%82%84%e5%ba%ad%e5%9c%92/>

<https://www.ckameya.com/>

<https://shimosuwaonsen.jp/item/682/>

中山道・下諏訪宿の本陣だった温泉宿に残る、小堀遠州作庭と伝わる桃山～江戸時代の池泉鑑賞式庭園

「聴泉閣かめや」（ちょうせんかくかめや）は下諏訪にある温泉旅館。江戸時代には隣接する『本陣岩波家』とともに中山道下諏訪宿の本陣だった施設であり、江戸幕府・徳川将軍家の歴代の御台所（正室）が宿泊したという「上段の間」に小堀遠州作と伝わる庭園が残されています。

幕末には新選組の近藤勇らも宿泊したという下諏訪宿の本陣。「かめや」としての営業が始まったのは明治時代以降で、近代には島崎藤村、芥川龍之介、与謝野晶子、与謝野鉄幹、宇野浩二、西條八十といった文豪が滞在したことも。2017年には下諏訪に足を運んだ際、ちょうど「十四代将軍・徳川家茂公の正室となった皇女和宮さま宿泊 150 周年につき、展示室と庭園の見学」という看板が出ていて、初めて見学。そして 2019 年 7 月に再訪しました！（現在も見学可能かどうかは事前に問合せを…！）

その「上段の間」に残された池泉鑑賞式庭園は桃山時代～江戸時代初期に造られたもので、作庭は小堀遠州とされています——が史料が残されているか（小堀遠州がこの時期下諏訪へ訪れているか）は不明。ただ確かに、その心字池とその築山の滝石組は遠州の本拠地である近江国・長浜辺りで見る江戸時代の庭園に近いところを感じます。

この庭園、お隣の岩波家とも元々繋がっていたのかな？という感じの門があることに今回気づいた。併せて立派な庭園だったのかもしれないなあ。宿泊の方は夜に庭園を眺めることも。温泉宿を探す時の決め手にもどうぞ！

アクセス

JR中央本線 下諏訪駅より徒歩約10分

下諏訪コミュニティバス「諏訪大社秋宮前」バス停より徒歩1分

〒393-0019 長野県諏訪郡下諏訪町横町木ノ下 3492



23【諏訪】上諏訪

31 地蔵寺庭園 諏訪

<https://oniwa.garden/jizoji-temple-suwa-%e5%9c%b0%e8%94%b5%e5%af%ba%e5%ba%ad%e5%9c%92/>

[https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9C%B0%E8%94%B5%E5%AF%BA_\(%E8%AB%8F%E8%A8%AA%E5%B8%82\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9C%B0%E8%94%B5%E5%AF%BA_(%E8%AB%8F%E8%A8%AA%E5%B8%82))

石鳥居からの水流が美しい、信州の隠れた名園。“日本百名庭園”の池泉回遊式庭園、『清水之飛泉』の庭

「地蔵寺」（じぞうじ）は高島藩三代目藩主・諏訪忠晴が高島城の鬼門除けの祈願寺として現在地に移された曹洞宗の禅寺。境内の奥にある池泉回遊式庭園は諏訪市天然記念物・名勝に指定されています。（何の媒体によるものか不明ですが…）“日本百名庭園”にも選定されている『清水之飛泉』の庭。

2019年夏のアウェー松本戦ついでに信州庭園巡り。上諏訪のゲストハウスで一泊した足で諏訪周辺の庭園も巡りました。

「愛宕山地蔵寺」の創建は安土桃山時代の1584年（天正12年）。当初は諏訪頼忠により金

子城の鬼門除けとして建立され、その後 1689 年（元禄 2 年）に上諏訪の高台部の現在地に移転。境内からの諏訪市街地の眺めも良き！

拝観料を納めるポストに志納を入れた後は自由拝観。この庭園はこの地に移転されたのにあわせ作庭がはじまり、江戸時代中期初頭（1700 年代前半？）に完成したものと推定されています。日本百名庭園の正体はわからないけど——こちらは本当に素晴らしい庭園だった！作庭当初はあまり植栽がなく現在よりも石組が目立ったそうだけれど、現在は現在でとてもお手入れが行き届いている庭園。塩尻の『長興寺庭園』のお手入れもきれいだったけれど、刈込みの感じとか同じ造園会社・植木屋さんが入っているのかなあ？

訪れた時は本堂側から縦長の池泉を眺めるのがビューポイントなのかなと思っていて——奥に見える石鳥居から滝が落ちている姿も眺められるし、左右からマツやモミジが斜めに掛かっていることで視点が自然と中央に寄る。

なんだけど、かつては築山が強調されていたと説明板にはあるので——書院側から池泉を横長にして観るのがビューポイントだった？そう思うと書院から来た時の踏分石はすごく大きいし、そこから築山を見ると枯滝石組が見える。

どちらが正解？どちらも正解で良いんじゃないか（雑）。石鳥居側から庭園越しに見る本堂も、築山から眺める庭園も絵になる！護岸石も大きいものが多いし自然石による石灯籠をはじめとして色んな石造物が楽しい。

個人的に京都の『大寧軒庭園』の三連鳥居にかなり心持ってかかれているので、この庭園の奥の石鳥居の姿もすごく好きだし、モミジも多いから紅葉時期はめちゃめちゃ美しいんじゃないか……？いつか秋にも訪れたい！

アクセス

JR中央本線 上諏訪駅より徒歩 20 分弱

上諏訪駅より路線バス「地藏寺前」バス停下車すぐ（本数そんな多くない）

〒392-0005 長野県諏訪市岡村 2 丁目 12 - 16



32 貞松院 諏訪

<https://oniwa.garden/teishoin-temple-%e8%b2%9e%e6%9d%be%e9%99%a2/>
<http://teishoin.jp/>
<https://www.suwakanko.jp/spot/detail/?id=2389>

例年春に特別公開される、樹齢四百年のシダレザクラと庭園。越後高田藩主・松平忠輝公の墓所も

【通常非公開・特別公開あり】

「貞松院」（ていしょういん）は徳川家康の六男であり越後高田藩主も務めた大名・松平忠輝と初代諏訪藩主・諏訪頼水の正妻・貞松院殿の菩提寺。

通常非公開の庭園にある「貞松院のシダレザクラ」は諏訪市指定天然記念物。例年春に庭園とともに特別公開されます。そのほか、松平忠輝墓地、貞松院殿墓地、両名の遺品などが諏訪市の史跡や文化財に指定されています。

2019年夏のアウェー松本戦ついでに信州庭園巡り。上諏訪のゲストハウスで一泊した足で諏訪周辺の庭園も巡りました。これまで何度か温泉目的も含め訪れていた上諏訪なのですが、今回訪れる前に寺町があることに気づいて…。

中でもこの貞松院には庭園がありそう…！と思い訪れてみた—ののですが、残念ながら普段は非公開。「春のシダレザクラの見頃の時だけ特別公開している」とお聞きしたのですが、2020年も枝垂れ桜のライトアップを開催予定だそうなのでお近くの方は是非訪れてみて…！

お寺の歴史も少しだけ。正式名は「迎冬山 貞松院 月仙寺」（げっせんじ）。桃山時代に無哲上人によって「慈雲院」として創建された後、二代目高田藩主・諏訪忠恒によって母親・貞松院殿の菩提所とされ現在の寺名に改めました。

また越後高田藩主として高田城を築城した松平忠輝は父・家康や兄・徳川秀忠と折り合いが悪く、高田藩主を解かれ伊勢や飛騨高山を転々、後に移された諏訪の地で亡くなるまでの60年間を過ごしました。ちなみに松平忠輝の妻だった五郎八姫（伊達政宗の長女）の墓所のある『天麟院』も紹介しています。

現在建つ本堂は昭和初期（1936年）に再建されたもの、庫裡が江戸時代の末期に再建されたもの。なお諏訪市天然記念物のシダレザクラは諏訪忠恒が大坂夏の陣の際に持ち帰ったものだそうで、それ以来400年の樹齢をほこり“延命桜”と呼ばれるそう。

貞松院と同じ寺町を形成する法光寺、正願寺も参道の花木がきれいで（訪れた時にはアジサイが満開）、そしてどうやら同じ規模の池泉鑑賞式庭園があるみたいなんですよねえ…山側から流れてくる角間川に沿ってこの寺町が形成されていることも含め気になる寺町の庭園群。

アクセス

JR中央本線 上諏訪駅より徒歩 12 分

上諏訪駅より路線バス「角間橋」「旧道角間橋」バス停下車すぐ

〒392-0004 長野県諏訪市諏訪 2 丁目 16-21



33 権祝邸庭園 諏訪・茅野

<https://oniwa.garden/gonnohori-house-%e6%a8%a9%e7%a5%9d%e9%82%b8/>

<https://suwacitymuseum.jp/nandemo/koumoku/0300/030304.htm>

https://crd.ndl.go.jp/reference/modules/d3ndlcrdentry/index.php?page=ref_view&id=1000219543

神長官守矢史料館すぐ近く。立派な黒い門に目を引かれる、諏訪大社上社の神職“権祝”を務めた家系の邸宅

【非公開】

「権祝邸」（ごんぼうりてい）は諏訪大社上社の神職“権祝”を務めた矢島氏の邸宅。同じく諏訪大社の神職“神長官”を務めた守矢氏の『神長官守矢史料館』のほぼ斜め向かい（茅野市と諏訪市の市境）。

藤森照信建築『神長官守矢史料館』『フジモリ茶室』を訪れ、そしてそのまま諏訪大社上社へ——と移動をする道すがらの立派な門と石垣が気になっていたのですが、（文化財指定は受けていないけれど）やはり由緒ある邸宅として地元では知られているそう。

権祝というのは諏訪大社の神官の最高位・大祝の下におかれた“五官祝”のうち1つ。この邸宅は“跡”ではないのですが、だいぶ前から無住らしく側道からはちょっと傷んでいるように感じる邸宅の姿が見える。

また築山と石組、池泉庭園があったのではと思わせるくぼみと護岸の姿も。観光施設になるでもなく、このまま荒廃してしまうのかもしれませんが――古庭園の記録として。

アクセス

JR中央本線 茅野駅より約 3km（駅及び駅近くのホテルにレンタサイクルあり）

上諏訪駅より路線バス「上社」バス停下車 徒歩 8 分

〒392-0015 長野県諏訪市大字中洲神宮寺 1455



34 仏法紹隆寺庭園 諏訪・茅野

<https://oniwa.garden/buppoji-temple-garden-%e4%bb%8f%e6%b3%95%e5%af%ba%e5%ba%ad%e5%9c%92/>

<https://buppou-syoryuji.jp/>

<https://www.suwakanko.jp/spot/detail/?id=2390>

坂上田村麻呂や空海ゆかりの寺院に残る、安土桃山時代～江戸、大正時代～昭和の各時代に作庭された池泉式庭園

【拝観は要予約】

「佛法紹隆寺」（ぶっぽうしょうりゅうじ）は平安時代の初め 806 年頃に征夷大將軍・坂上田村麻呂が戦勝報告の際に開かれ、その後弘法大師空海が入り当時の信州・甲州の本山としたという高野山真言宗の古刹。

安土桃山時代～江戸時代～明治・大正時代～昭和という各年代に作庭された池泉庭園が「仏法寺庭園」として諏訪市指定名勝となっています。

2019 年 7 月に約 2 年ぶりに訪れました！前回訪れた際には拝観料を受付のポストに入れて

あとは自由拝観のような形でしたが、ご住職が変わられたのもあり、御本尊の説明もしていただけるなど順路に沿って拝観する形となりました。またGWや紅葉時期以外は拝観は要予約。

…だけど今回自分はそういった風が変わったことを知らずにいたので直接行ってしまった。運良くご住職が帰ってこられたので無事拝観できましたが、今後行かれる方は予約するのが確実です！

正式名称が『鼈澤莊巖山 大虚空蔵院 仏法紹隆寺』（長い）。坂上田村麻呂はこのお寺と諏訪大社上社本宮の近隣にあった『神宮寺』を同時に開き、空海もこの2寺を兄弟寺院として役割を分けながらこの地の拠点としたそう。戦国時代には甲斐・武田軍の支配下となったり、織田信長軍が攻め入ったりされつつ、諏訪家再興の祖という諏訪頼忠公が和歌山『根来寺』から尊朝を第11世住職に迎え再興、江戸時代には諏訪高島藩の祈願寺に。

神宮寺のみならずこちらも諏訪大社と関係性が深く、明治時代の神仏分離・廃仏毀釈で神宮寺が廃寺になった際には仏法寺に御本尊だった諏訪大明神本地普賢菩薩、普賢堂脇仏文殊菩薩などが移りました。現在の仏法寺の普賢堂は神宮寺の普賢堂を再建する意味も込め、江戸初期に建てられた高野山真言宗東京別院の本堂を昭和年代に移築したもの。山門も神宮寺より移されたもの…という情報をInstagramでいただいたけど、念のため公式サイトにはその旨が記述は無し←公式サイトにも記述がありました！

庭園は複数個所に分かれていて、まず普賢堂の裏にある池泉鑑賞式庭園が昭和年代に作庭された境内で最も新しい？庭園。そこから本堂に戻る道沿い（築山の麓）にあるのが大正時代に作庭された“流れ”を表現した庭園。そして本堂・庫裏の裏、築山の斜面を活かした池泉庭園が安土桃山時代に作庭～江戸時代に改修されたと伝わる古庭園です。

前回訪れた5月と今回の7月ではモミジなどの落葉樹の葉の付き方と影によって見え方が違うので、混ぜながら写真を掲載しています。ちなみに後半に載せている、築山の上から庭園を見ることは現在は不可。基本は観賞式庭園だけど、その時は池泉回遊式庭園なのかなと感じたぐらいの広さをほこる庭園。

庭園上部の集団石組や滝石組など多様な石組が特徴的な庭園で、数少ない“玉潤流”の庭園とも言われます。前述の桃山時代のご住職・尊朝と同時期に根来寺で修行していた玄宥（げんゆう）が後に京都で智積院を開いた（再興した）ため、『智積院庭園』との類似性も指摘されています——といっても智積院の現在の庭園も江戸時代に改修されているので「似てないかも」と言われたら「そうかも」と思う。池中央の自然石を上下に組み合わせた石灯籠がかわいい。

以上、自分の記憶がどうしても庭園メインになってしまうのですが（宝物庫も鑑賞したけど、記憶が薄い…）——所蔵されている中には鎌倉時代に運慶による作と伝わる「不動明王立像」（長野県宝）もあります。

その他にも計 6,000 点という多くの文化財・古文書を所蔵し、めっちゃうちゃすごいのはサイトで『古文書・聖教データベース』を公開していること。基本的にはタイトル・年代などのみとはいえ、一つの寺院でこのようなデータベースを作り、公開している例って他にある？記憶にない。これはマジすごい。

アクセス



35 神宮寺普賢堂跡・心字池庭園 諏訪・茅野

<http://yatsu-genjin.jp/suwataisya/sanpo/jinguuji.htm>

「神宮寺」(じんぐうじ)は東日本を代表する神社の一つ「諏訪大社」の上社本宮からすぐの場所にあった大寺院。

神宮寺とは。諏訪大社に限らずかつては各地の神社に付属しておかれていた寺院のこと。明治時代の神仏分離令によってその多くが消失、または改名したり神社に転向して現在に至ります。

諏訪大社本宮にも明治期までは神宮寺があり、大坊（神宮寺）、下ノ坊（蓮池院）に加え、現在の参道には上ノ坊（如法院）、神洞院、宝蔵坊、松林坊、蓮乗坊、泉蔵坊、玉蔵坊、善勝坊…といった寺院が立ち並んでいたそう。現在は全てなくなり住所・町名としてだけ“神宮寺”の名が残ります。ちなみに明治期の庭園見られる『茶庭亀石』さんがある場所には神洞院があったみたい。

諏訪大社参道から「仁王門跡」の碑が立つ石段を登っていくと（参道はアジサイがきれいだった！）、池泉式庭園の遺構と思われる心字池が残ります。現在は広場のようになっていますが（ちなみに諏訪大社神苑の一部だそう）、かつてここには普賢堂・五重塔・鐘楼——といった建造物がありました。

普賢堂の歴史は古く、建立したのは弘法大師空海と伝わります。鎌倉時代の1292年に諏訪氏の支族・知久敦幸…あっちゃん…が奈良・東大寺の宮大工？藤原肥前守を招いて再建。その後、明治の廃仏毀釈で五重塔、鐘楼などその他の建物と共に取り壊しに——明治の当時で600年の歴史がある建造物を取り壊されたのかと思うと、廃仏毀釈というムーブメントのすごみを感じる。

ちなみに普賢堂にあったご本尊は同じく諏訪市の『仏法寺』に所蔵されているそう。現在は心字池のほとりに石灯籠の礎石だけが残ります。

また同じく池のほとりに立つ大木「五本杉」は樹齢約400年で、諏訪市天然記念物。現在の木自体は江戸時代からのものですが、かつて弘法大師が木の下に宝を埋めて

朝日照り夕日かがやくこの山に 漆千杯、金千杯、朱千杯

という詩を残したそう。ロマンチック。

そして心字池。諏訪市博物館の模型を元にした『明治維新前の諏訪大社上社と神宮寺』看板には普賢堂の横に池泉鑑賞式庭園が描かれている。

一方で諏訪大社の権祝を務めた矢島家に伝わるという江戸時代初期の絵図には、普賢堂・五重塔は描かれているけどこの池泉は描かれていない。絵的にスペースの都合もあると思うので…“普賢堂に伴って作庭されたもの”だとすると下手したら鎌倉時代とかそんなこともあるかもしれないのですが、絵にあれば「少なくとも江戸初期には存在してた」とか言えるのにな～という。

そんな妄想をしながら広場を散策——放っておけばきっと土に埋もれていくのでしょうか。ち

なみに法華寺も宮寺の一つだったそうだから、法華寺だけある程度ちゃんとした形で残ったというのは不思議なもの。

アクセス

JR中央本線 茅野駅より約 3km（駅及び駅近くのホテルにレンタサイクルあり）

上諏訪駅より路線バス「上社」バス停下車 徒歩 5 分

〒392-0015 長野県諏訪市大字中洲神宮寺 838



36 法華寺庭園 諏訪・茅野

<https://oniwa.garden/hokkeji-garden-suwa-%e6%b3%95%e8%8f%af%e5%af%ba%e5%ba%ad%e5%9c%92/>

https://www.nagano-tabi.net/modules/enjoy/enjoy_6023006.html

<https://ameblo.jp/fujisan3216/entry-12299183065.html>

蘭溪道隆、織田信長、明智光秀…歴史的人物も滞在した諏訪大社上社本宮に隣接する古刹の池泉鑑賞式庭園

東日本を代表する神社の一つ「諏訪大社」の上宮に隣接する「法華寺」（ほっけじ）。2019年夏に4年ぶりに再訪しました！斜面に植わっているツツジやサツキは以前5月に訪れた際にはちょうど花を咲かせていた。

関連サイトに掲載した「fujisan3216 のブログ」さんの記事から一部抜粋させていただきます。

○ 鎌倉時代には蘭溪道隆が絡んでいる

- 織田信長が諏訪大社を焼き討ちにした
- 信長が諏訪大社を焼き討ちにしたのは、諏訪大社は甲州・武田氏が厚く信仰していたから
- 諏訪大社焼き討ちの後、信長は隣接する法華寺を本陣とした
- そこで信長が明智光秀に激おこ
- その2ヶ月後に「本能寺の変」が起こった
- その後現代となり、現在の本堂は平成年代に再建されたもの（1999年に放火されたと…なんて罰当たりな）

歴史ある寺院なので本堂裏の池泉鑑賞式庭園も古くからあった可能性もありますが、詳細は不明です。また同じく境内の裏手には「忠臣蔵」で有名な吉良上野介義央の子・吉良義周の墓所もあります。諏訪大社と比べて立ち寄る人は多くないかもしれませんが、併せてチェックしてみると良いかも。

また庭園はないけど、「諏訪大社」の上社の前宮・本宮、下社の春宮・秋宮もそれぞれ足を運びました。せっかくなのでここでは上社本宮の写真も掲載。信長による焼き討ちの後、徳川家康によって再建。現在の拝殿は江戸時代後期に作り替えられたものが中心になっており、国指定重要文化財となっています。

かつてこの一帯は諏訪大社や法華寺のみならず『神宮寺』という大きな寺院があり、その塔頭を中心に多くの伽藍が立ち並んでいたとのこと。Googleマップ見てるだけでも確かに何とも言わない「心字池」というスポットがあるんだよなあーと思って訪れた神宮寺跡の心字池については別エントリーにて！

アクセス

JR中央本線 茅野駅より約3km（駅及び駅近くのホテルにレンタサイクルあり）

上諏訪駅より路線バス「上社」バス停下車 徒歩5分

〒392-0015 長野県諏訪市大字中洲神宮寺 856



37 茶庭亀石庭園 諏訪・茅野

<https://oniwa.garden/kameishi-%e8%8c%b6%e5%ba%ad%e4%ba%80%e7%9f%b3/>
<http://ishiryu.jp/kameishi/>
<http://ishiryu.jp/>

この地で採れる神宮寺石の巨石“亀石”や武者小路実篤“官休庵”を模した庭門が見所の明治時代の庭園

「茶庭 亀石」（ちゃていかめいし）さんは諏訪大社上社本宮の表参道沿いにある茶房で、明治13年創業・130年を歴史を持つ石材店『石柳北原』さんの自宅で開かれています。店内から眺められる池泉回遊式庭園は石柳北原さんの創業時、明治初期に作庭されたもの。

茅野の藤森照信の茶室群『フジモリ茶室』とあわせ、諏訪大社上社本宮にも2年ぶりに訪れました！このお店に庭園があるなあ…と思ったのは、今年の春に上社本宮に隣接する『法華寺庭園』のエントリを書いていた時。（ちなみに法華寺も再訪したのですが、石柳北原さんが石積の工事をされている所でした）

法華寺の中でも書いているけれど、上社本宮の参道は明治以前は寺院が立ち並んでいました。現在の庭園はかつてここにあった寺院の庭園がルーツになっている…というわけではなさそうだったけど、全く関係性が無いというわけではないかも。わからないけど。なお庭園の背後の山はかつて「神宮寺」の境内で、庭園の遺構である心字池が残る——ののですがこれはまた別に紹介。

茶庭亀石さんは石材屋さん自らが手掛けられている庭園ということで、池泉の中心に浮かぶ“亀石”や自然石による灯籠、蹲居など、使われている岩にこだわりが見られます。亀石も一切削っておらず山から取れたそのままの自然石なのだからすごい！このゴツゴツしたかっこいい岩はいずれもこの裏山からかつて採れていた“神宮寺石”と呼ばれるもの。また庭門は武者小路実篤の“官休庵”の庭門を模して作られたものです。

許可を取って高台の四阿まで登らせてもらったのですが（眺望は勿論◎）、その間もニコニコとご主人が庭を眺めておられて。色々この庭で使われている石についてお話してくださって——この庭もまた愛されている庭なんだなあと感じることができてとても楽しかった。

そして奥様は先の『フジモリ茶室』でお茶の先生としても入られているそうです。低過庵中の話やお茶会のエピソードもお聞きできてそれも楽しかったし、そんな方のお抹茶を頂けるお店でもあります（あとこの日は暑い日だったので寒天が美味しかった！）。市は変わるけどフジモリ茶室からは徒歩10分ちょっとと割と近い。併せてどうぞ！

アクセス

JR中央本線 茅野駅より約 3km（駅及び駅近くのホテルにレンタサイクルあり）
上諏訪駅より路線バス「上社」バス停下車 徒歩 5 分
〒 392-0015 長野県諏訪市大字中洲神宮寺 834



25【諏訪】辰野

51 小野宿問屋（旧小野家住宅） 辰野・小野

<https://oniwa.garden/former-ono-house-%e5%b0%8f%E9%87%8E%E5%AE%BF%e5%95%8f%E5%b1%8b/>

<http://kankou.town.tatsuno.nagano.jp/play/info/onojuku.html>

https://www.go-nagano.net/topics_detail6/id=4659

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B0%8F%E9%87%8E%E5%AE%BF>

中山道 & 伊那街道の宿場町・小野宿の古い町並みに残る長野県宝の建築。内大臣秘書を務めたご当主の美術品も

【冬季除き月 1 ペースで公開】

「小野宿問屋」（おのじゅくとんや）は中山道・塩尻宿から飯田方面へ向かう伊那街道（三州街道）の宿場町・小野宿に残る江戸時代末期の建造物で「旧小野家住宅」として長野県の県宝に指定されています。（公開されていないけど古文書「小野家文書」も県宝）

2019 年夏、アウェー・松本山雅戦からの南信州庭園めぐり。この時は電車＋レンタサイクルではなく原付で巡っていたのですが、街道沿いで偶然出会った場所がこの“小野宿”。まさに古い宿場町の面影を残す、重厚な建物が並んでいてビックリ。長野県は重要伝統的建造物



26【諏訪】塩尻

61 塩尻短歌館“集石庭” 塩尻・広丘

<https://oniwa.garden/shiojiri-tankakan-%e5%a1%a9%e5%b0%bb%e7%9f%ad%e6%ad%8c%e9%a4%a8/>

<http://www.city.shiojiri.lg.jp/tanoshimu/hakubutukan/tankakan/annai.html>

<https://oniwa.garden/shiojiri-tankakan-%e5%a1%a9%e5%b0%bb%e7%9f%ad%e6%ad%8c%e9%a4%a8/%E5%85%AC%E5%BC%8FSNS>

<https://tokimeguri.jp/spot/401.php>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A1%A9%E5%B0%BB%E7%9F%AD%E6%AD%8C%E9%A4%A8>

現代長野の作庭家・小口基實さんによる枯山水石庭。“棟飾り”が特徴的な信州の本棟造民家は国登録有形文化財

塩尻市の広丘地区はかつて若山牧水、島木赤彦、太田水穂、窪田空穂といった明治時代～近代の歌人が集った町だったそう。この「塩尻短歌館」（しおじりたんかかん）はそんな“短歌の町”に平成4年に開館された文学館。

その特徴的な主屋は明治維新の初年度1868年に建てられたもので、国登録有形文化財。そして中庭には現代長野を代表する作庭家・小口基實さん作庭による石庭“集石庭”があります。

2019年夏の「松本アウェーついでに色々庭園巡った」シリーズ。この短歌館は元々庭園目当てだったわけではなくて――

『中田家住宅』で松本には『馬場家住宅』という国重文の大きな民家があると教わった⇒そこで塩尻短歌館のチラシを見つけた⇒ここもかっこいい建築だなあー観たい！と思って訪れたという流れ。

元々は塩尻市の中心地、中山道沿いで石灰業を営んでいた旧家「柳沢家」の住宅として建てられたもので、短歌館の開館のために1992年にこの地に移築されました。

この建築も馬場家住宅も、後日紹介する小野宿の脇本陣も、信州の本棟造りの古い豪邸は“棟飾り”が欠かせない。その姿は“雀おどし”とか“すずめおどり”と言うのだとか（諸説あり）。純粹に出会えるとワクワクする…し、建築史家／千葉大名誉教授・大河直躬さんの評では“長

野県内に現存する本棟造りの民家の中では最も上質”とされます。

そして中庭に、木曾の国登録名勝『興禅寺庭園』の前庭なども手がける小口基實さんによる“集石庭”（集いの庭）があります。この平庭枯山水庭園はこの地で活躍した歌人を石に見立て、彼らが新しい時代の渦潮に集まる姿を表現したもの。

手前にある小さな手水鉢は主屋と同じく柳沢家に元々あったものを移したもので、石庭を取り囲む龍安寺垣は“吹寄龍安寺垣”という進化系なのだそうです。

短歌に興味ある方もない方も、この建物と枯山水庭園、穴場スポットです。そしてこの短歌館で見つけたのがその翌日に訪れた『笹離宮』でした。行き当たりばったり旅！

アクセス

JR篠ノ井線 広丘駅より徒歩 10 分強

塩尻駅より塩尻市地域振興バスで「短歌歌入口」バス停下車 徒歩 6 分（※日曜運休・本数少ない）

〒399-0706 長野県塩尻市広丘原新田 288-1



62 釜井庵（本洗馬歴史の里資料館） 塩尻・洗馬駅

<https://oniwa.garden/kamaian-%e9%87%9c%e4%ba%95%e5%ba%b5/>

<http://www.city.shiojiri.lg.jp/tanoshimu/hakubutukan/motosebarekisinatosato/index.html>

<https://tokimeguri.jp/spot/1004.php>

妙義山城主・三村長親の居館跡に残る、江戸期の紀行家・菅江真澄も過ごした江戸中期の古建築。長野県指定史跡

「釜井庵」（かまいあん）は戦国時代に当地の妙義山城主・三村長親の居館跡に残る江戸時

代中期の建造物で、長野県指定史跡。『本洗馬歴史の里資料館』が併設されています。

2019年夏、アウェー・松本山雅戦からの南信州庭園めぐり。『長興寺庭園』が目的で初めて洗馬を訪れ、すぐ近くにあった釜井庵にも立ち寄りました。

この“本洗馬歴史の里”は中世～戦国時代にかけて三村氏が城下町として形成した場所とされます。三村氏が甲斐国・武田氏によって滅ぼされた頃には中山道の宿場町“洗馬宿”もこの本洗馬にあったそうですが、江戸時代に現在の洗馬宿の方に機能が移りました。

ただその後も焼物の街として栄え、江戸時代後期～近代までは複数の窯元が存在し、文人墨客も訪れていたそう。

現在の釜井庵は江戸時代中期に建立されたもので、最近では平成10年（1998年）に修復が行われています。ちなみにWikipediaには1616年に小笠原貞慶（信濃国守護大名、松本城の前身・深志城主）が建立した寺院が前身とあるけど、小笠原貞慶はもっと早く亡くなっているのよね…ちなみに小笠原貞慶の父親が、会津若松『大龍寺庭園』で紹介した小笠原長時。

江戸時代の紀行家（旅行家）菅江真澄が1783年5月から約1年間、本洗馬のこの釜井庵に滞在。氏の著書『自筆本真澄遊覧記』全89巻は国指定重要文化財となっていますが、その中にはこの釜井庵での生活を綴った巻（委寧乃中路、庵の春秋）も。またそれ以外の時期には寺子屋として地域の学習の場として用いられていたそうです。

18世紀（1700年代）の建築の特徴をよく残しているとされ、建物の周囲には池泉庭園の遺構らしきものとサツキ・ツツジの群植が見られます。

敷地内にある本洗馬歴史の里資料館では菅江真澄や釜井庵に関する資料、かつて焼き物の町だったこの地域をしのび陶器の展示や焼き物体験なども。

七夕の直後だったこの日は、笹の葉に七夕の願い事が沢山つるされていた。庭園としては小規模だけど、こういった古建築は単純に好きなので残されてほしいなあ。『長興寺庭園』とあわせてどうぞ！

アクセス

JR中央本線 洗馬駅より3km弱（徒歩35分）

塩尻駅より約4.5km（レンタサイクルあり ※冬期はないかも）

塩尻駅より塩尻市地域振興バス「すてっぷくん」乗車、「釜井庵前」バス停下車 徒歩2分

（⇒日祝は運休。時刻表はこちら）

〒399-6462 長野県塩尻市大字大字洗馬元町2323-1



63 長興寺庭園 塩尻・洗馬駅

<https://oniwa.garden/chokoji-temple-%e9%95%b7%E8%88%88%E5%af%ba%E5%ba%ad%E5%9c%92/>

<http://www.choukouji.info/>

<https://tokimeguri.jp/spot/741.php>

[https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%95%B7%E8%88%88%E5%AF%BA_\(%E5%A1%A9%E5%B0%BB%E5%B8%82\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%95%B7%E8%88%88%E5%AF%BA_(%E5%A1%A9%E5%B0%BB%E5%B8%82))

木曾義仲の母の墓所も残る寺院に、江戸時代中期に作庭された池泉回遊式庭園は美しい刈込が見られる隠れた名園！



「青松山長興寺」（ちょうこうじ）は室町時代に開かれた曹洞宗の寺院。本堂の裏手にある江戸時代の池泉回遊式庭園は塩尻市指定名勝。斜面の刈込みが美しく、2019年に観た庭園の中でとても印象的だった庭園の一つ！

2019年夏、アウェー・松本山雅戦のついでに南信州の庭園を巡りました。松本市の『百瀬家庭園』でお話する中で、長興寺の庭園はよくお手入れされていて良い…とお聞きして。全くノーマークだったのですが、電話してみたら拝観可能とお聞きしたので伺いました！志をお納めして庭園へ。

地図で見ると近くには長野県指定史跡の『釜井庵』や『本洗馬歴史の里資料館』があり、歴史的なエリアなんだろうなあというのがわかるのですが、その参道からはとても山深い場所

…という印象を受ける。（江戸時代に建立された、山門の彫刻は立派で見応えあり！）

長興寺が開かれたのは室町時代の中頃、大永7年（1527年）。洗馬・妙義山城主の三村忠親の菩提寺として建立。その後、武田信玄らの懇願により大本山・総持寺から才応総芸禅師が入り現在の寺名に。松本市～塩尻市の寺院を巡礼する“信州筑摩三十三カ所観音霊場”の33番札所。

また公式サイトには説明がないけど、お寺の裏山の中には木曾義仲の母・小枝御前の墓所（木曾義仲御母堂の墓）があるという説明看板も。源義仲（駒王丸）は2歳の時に母・小枝御前とともに信濃権守・中原兼遠を頼ってこの地に逃れてきたそう。長興寺建立以前にもお寺や小庵があったのだろうか。

本堂裏に市の名勝となっている池泉回遊式庭園があります。南信州で多く見られる横長の池泉を中心とする庭園で、作庭されたのは江戸時代中期の安永から天明年間（1772～1788年頃）の様式と推測されています。

山の斜面を活かした滝石組と池泉の護岸石組は先の“木曾義仲御母堂の墓”の説明看板（の明治以前の絵図）にも描かれていて、園路に沿って斜面を登るとその滝石組を上から近くで見られることもできるのですが。

でもこの庭園は刈込まれた樹木たちの美しい姿と山の借景が見所！丸みを帯びたり、四角に刈り込まれているサツキやツツジ。庭園の原型がこういった刈込中心の庭園だったのかはわからないし、現在入られている庭師さんのセンスによるものかもしれないけど（園路に脚立が置かれていたから丁度剪定の時期だったのかもしれない）。その比較は…古写真があったら見てみたいけど、現在の玉ものが様々な大きさ・形に刈込まれたこの姿もとても好き！

春に花を咲かせる時期も美しいだろうし、秋にはドウダンツツジや頭上のモミジの紅葉が美しいそう—次回はそんな時期にも再訪したい！2020年はその時期に対戦がありますように…（笑）長野県・信州の穴場の名園。

アクセス

JR中央本線 洗馬駅より3km弱（徒歩35分）

塩尻駅より約5km（レンタサイクルあり ※冬期はないかも）

塩尻駅より塩尻市地域振興バス「すてっぷくん」乗車、「長興寺前」バス停下車 徒歩5分（⇒日祝は運休。時刻表はこちら）

〒399-6462 長野県塩尻市大字洗馬元町 3392



30 長野市の庭園 (10 件) 須坂市・小布施の庭園 (8 件)

<https://oniwa.garden/category/%e7%94%b2%e4%bf%a1%e8%b6%8a%e5%8c%97%e9%99%b8%e5%9c%b0%e6%96%b9%e3%81%ae%e5%ba%ad%e5%9c%92/%e9%95%b7%e9%87%8e%e7%9c%8c%e3%81%ae%e5%ba%ad%e5%9c%92/%e9%95%b7%e9%87%8e%e5%b8%82%e3%81%ae%e5%ba%ad%e5%9c%92/>

<https://oniwa.garden/category/%e7%94%b2%e4%bf%a1%e8%b6%8a%e5%8c%97%e9%99%b8%e5%9c%b0%e6%96%b9%e3%81%ae%e5%ba%ad%e5%9c%92/%e9%95%b7%e9%87%8e%e7%9c%8c%e3%81%ae%e5%ba%ad%e5%9c%92/%e9%a0%88%e5%9d%82%e3%83%bb%e5%b0%8f%e5%b8%83%e6%96%bd%e3%81%ae%e5%ba%ad%e5%9c%92/>

旧樋口家住宅庭園 長野

旧樋口家住宅について 「旧樋口家住宅」(きゅうひぐちけじゅうたく)は松代藩主・真田家の御殿『真田邸』のすぐ南西に位置する武家屋敷。現在は無料で公開されており、主屋・土蔵・長屋が長野市指定文化財。敷地内には“泉水路”から水を取り入れた池泉回遊…

真田邸庭園 長野

真田邸庭園について 「真田邸」(さなだてい)は江戸時代初期～幕末まで松代藩主をつとめた大名・真田家の大名屋敷。すぐ近くにある松代城の城外御殿で「松代城跡 附 新御殿跡」として国指定史跡となっています。通称“新御殿”。御殿からはノロシ山をはじ…

旧山寺常山氏庭園 長野

山寺常山邸庭園について 「山寺常山邸」(やまでらじょうざんてい)は江戸時代に真田家がおさめた松代藩の中級武士・山寺常山の邸宅跡。藩では江戸幕府で老中をつとめた真田幸貫や真田幸教、真田幸民といった藩主の下で寺社奉行などを要職を歴任し、知識人と…

象山神社園池 長野

象山神社庭園について 「象山神社」(ぞうざんじんじゃ)は松代藩出身で、幕末に思想家／

教育者として勝海舟・坂本龍馬・吉田松陰・橋本左内らの師でもあった佐久間象山をまつた神社。「旧佐久間象山邸」として長野県指定史跡でもあり、その庭園が国登録…

善光寺東庭園 長野

善光寺東庭園について 「善光寺」(ぜんこうじ)は飛鳥時代の640年代に創建されたと伝わる信州・長野を代表する寺院であり、「善光寺参り」で数多くの観光客を集める長野市の代表的観光スポット。本堂は国宝に指定されています。難波堀江で打ち捨てられ…

北野美術館庭園 長野

北野美術館について 「北野美術館」(きたのびじゅつかん)は長野市の郊外、かつて長野電鉄屋代線の沿線にある私設美術館。前庭である枯山水庭園は重森三玲により昭和40年(1965年)に作庭されたもの。また美術館の設計は昭和を代表する建築家のひとり…

姨捨の棚田 長野

姨捨の棚田は「田毎の月」として国指定名勝。姨捨駅からの眺めは日本三大車窓の一つ。(直近で2016年9月訪問。以下の情報は訪問時の情報です。最新の情報は各種公式サイトをご確認ください。) 関連サイト / Related Sites 【公式サイ…

旧横田家住宅庭園 長野

城下町松代の江戸時代中期に作られたとされる中級武家屋敷(主屋など建物は国の重要文化財に指定)。主屋の前には池泉式庭園が残されています。(2016年9月訪問。以下の情報は訪問時の情報です。最新の情報は各種公式サイトをご確認ください。) 関連サ…

旧前島家住宅庭園 長野

前島家は上田・松代で代々真田家に仕えた武家。現存する建物は松代の武家屋敷の中でも最も古い部類とされ、屋敷前の庭園も当時(江戸時代)から残るものとのこと。(2016年9月訪問。以下の情報は訪問時の情報です。最新の情報は各種公式サイトをご確認ください…

寺町商家（旧金箱家住宅）庭園 長野

寺町商家（旧金箱家住宅）は、城下町松代で江戸末期から質屋等を営んでいた商家・金箱家の旧宅。明治時代に作られたとされており、泉水路と池をもつ庭園も当時作られたもののこと。（2016年9月訪問。以下の情報は訪問時の情報です。最新の情報は各種公…

35 小布施

<https://oniwa.garden/category/%e7%94%b2%e4%bf%a1%e8%b6%8a%e5%8c%97%e9%99%b8%e5%9c%b0%e6%96%b9%e3%81%ae%e5%ba%ad%e5%9c%92/%e9%95%b7%e9%87%8e%e7%9c%8c%e3%81%ae%e5%ba%ad%e5%9c%92/%e9%a0%88%e5%9d%82%e3%83%bb%e5%b0%8f%e5%b8%83%e6%96%bd%e3%81%ae%e5%ba%ad%e5%9c%92/>

高井鴻山記念館 小布施

高井鴻山記念館について 「高井鴻山記念館」（たかいこうざんきねんかん）は、親交のあった葛飾北斎を小布施に招いた江戸時代末期の文化人・高井鴻山の邸宅跡。北斎も滞在した江戸時代の建造物“脩然楼”（ゆうぜんろう）が残ります。『北斎館』からも程近く…

桜井甘精堂 泉石亭庭園 小布施

桜井甘精堂・泉石亭について 「桜井甘精堂」（さくらいかんせいどう）は江戸時代の1808年（文化5年）より続く、小布施の栗菓子のお店の老舗。その本店の一角にある食事処「泉石亭」には、ギャラリー「小さな栗の木美術館」や“おぶせオープンガーデン”として…

岩松院庭園 小布施

岩松院庭園について 「梅洞山 岩松院」（がんしょういん）は小布施の街のはずれ、中世の山城・雁田城の麓にある寺院。江戸時代を代表する浮世絵師・葛飾北斎が最晩年に描いた『八方睨み鳳凰図』が有名ですが（自分も訪れた目的はそれですが）、本堂の裏にあ…

フローラルガーデンおぶせ 小布施

フローラルガーデンおぶせについて 「フローラルガーデンおぶせ」は“花のまち”小布施に 1992 年（平成 4 年）に開園した 15,000 平方メートルの洋風の池泉回遊式庭園。100 以上の庭園が登録されている“おぶせオープンガーデン”の中核庭園施設。 …

36 須坂

ふれあい館しらふじ（旧丸田医院）庭園 須坂

ふれあい館しらふじ&神林家について 2019 年のGWに初めて須坂市に行きました。目的は豪商の邸宅『田中本家博物館』。更に観光施設と公開されている長野県宝『旧小田切家住宅』、国登録有形文化財の『旧越家住宅』を紹介しましたが、同じく国登録有形文…

旧越家住宅庭園 須坂

旧越家住宅（山丸一番館）について 「旧越家住宅」（きゅうこしけじゅうたく）は近代に製糸で栄えた須坂を代表する実業家で“製糸王”と呼ばれた越寿三郎ゆかりの近代和風住宅。明治時代に建てられた主屋・北蔵・南蔵が国登録有形文化財となっています。 2…

旧小田切家住宅庭園 須坂

旧小田切家住宅について 「旧小田切家住宅」（きゅうおたぎりけじゅうたく）は長野県宝に指定されている須坂藩の豪商の元邸宅。現在は文化施設やギャラリー、カフェ「CAFE KOH」として運営されています。 2019 年のGWに初めて須坂市に行きまし…

田中本家博物館庭園 須坂

田中本家博物館庭園について 「豪商の館 田中本家博物館」（ごうしょうのやかた たなかほんけはくぶつかん）は江戸時代から代々須坂藩の御用達商人を務めた北信濃を代表する豪商・田中本家の屋敷と、その屋敷を利用した博物館。3,000 坪という敷地の中…

40 松本市・安曇野の庭園 (7 件)

<https://oniwa.garden/category/%e7%94%b2%e4%bf%a1%e8%b6%8a%e5%8c%97%e9%99%b8%e5%9c%b0%e6%96%b9%e3%81%ae%e5%ba%ad%e5%9c%92/%e9%95%b7%e9%87%8e%e7%9c%8c%e3%81%ae%e5%ba%ad%e5%9c%92/%e6%9d%be%e6%9c%ac%e3%83%bb%e5%ae%89%e6%9b%87%e9%87%8e%e3%81%ae%e5%ba%ad%e5%9c%92/>

41 松本

馬場家住宅 松本

馬場家住宅について 「馬場家住宅」（ばばけじゅうたく）は松本市の東南部、松本平を一望できる高台にある国指定重要文化財の豪農屋敷。信州地方でやたら目にする“雀おどし”の棟飾りのある本棟造の主屋のほか、表門及び左右長屋、中門、文庫蔵、隠居屋、奥…

あがたの森公園 松本

あがたの森公園について 「あがたの森公園」は松本市の中心部にある都市公園で、大正時代に設立された旧制松本高校の跡地に開かれました。公園の入り口に残る「松本市あがたの森文化会館」は大正時代の洋風建築として、「旧松本高等学校 本館」「旧松本高等…

百瀬家庭園 松本

百瀬家庭園について 【見学は要予約】 「百瀬家庭園」（ももせけていえん）は松本市の市街地、JR平田駅から程近くにある松本市の特別名勝に指定されている庭園。現在もお住まいになられているので、庭園見学は事前に松本市の文化財課を通じて予約が必要で…

中田氏庭園（中田家住宅） 松本

中田氏庭園・中田家住宅について 【見学は要予約】 「中田家住宅」（なかたけじゅうたく）

は松本市の市街地、善光寺街道沿いにあり明治天皇の行在所となった名主屋敷。建物は松本市の重要文化財、その庭園「中田氏庭園」は長野県指定名勝となっています。 …

45 安曇野

安曇野高橋節郎記念美術館 安曇野

安曇野高橋節郎記念美術館について 「安曇野高橋節郎記念美術館」（あずみのたかはしせつろうきねんびじゅつかん）は穂高町（現・安曇野市穂高）出身の現代漆芸家・高橋節郎の作品を展示する美術館。安曇野に点在する美術館をむすぶ“安曇野アートライン”の…

大庄屋 山口家庭園 安曇野

大庄屋 山口家庭園について 【事前連絡推奨／12～3月は休園】 「大庄屋山口家」（おおじょうややまぐちけ）は『国営アルプスあづみの公園』の一角にある、江戸時代初期から続く大庄屋。現在も豪農屋敷が残り、その庭園が「山口家庭園」として長野県指定…

本陣等々力家庭園 安曇野

【2018年から休館中】「本陣等々力家」（ほんじんとどろきけ）は安曇野のかつての大庄屋の邸宅。江戸時代中期作庭と推定される庭園。宿場町ではないけど「本陣」というのは、松本藩主がこの辺りへ狩りなどに来た時に滞在する用に使われて

50 飯田・伊那・駒ヶ根の庭園 (3件)

<https://oniwa.garden/category/%e7%94%b2%e4%bf%a1%e8%b6%8a%e5%8c%97%e9%99%b8%e5%9c%b0%e6%96%b9%e3%81%ae%e5%ba%ad%e5%9c%92/%e9%95%b7%e9%87%8e%e7%9c%8c%e3%81%ae%e5%ba%ad%e5%9c%92/%e9%a3%af%e7%94%b0%e3%83%bb%e9%a7%92%e3%83%b6%e6%a0%b9%e3%81%ae%e5%ba%ad%e5%9c%92/>

51 飯田

53 駒ヶ根

光前寺庭園 駒ヶ根

光前寺庭園について 「光前寺」(こうぜんじ)は南信州を代表する寺院の一つで、本坊・客殿にある池泉鑑賞式庭園と本堂の前にある池泉庭園が国指定名勝となっています。後者の庭園は鎌倉時代を代表する僧・蘭溪道隆や夢窓疎石の作庭とも。2019年に5年ぶ…

55 伊那

深妙寺庭園 伊那

信州のあじさい寺・感應山深妙寺について 「深妙寺」(じんみょうじ)は長野県最大規模の“あじさい寺”として知られる寺院。2019年のアジサイの見頃に初めて訪れました！ 深妙寺の創建は平安時代。源頼朝の家臣として活躍した工藤祐経の息子・犬房丸が…

57 飯島

聖徳寺庭園 飯島

石上山 聖徳寺について 【庭園拝観は事前連絡推奨】 「石上山 聖徳寺」(しょうとくじ)はJR飯田線・田切駅の目の前にある寺院。3つの大石を配した枯山水庭園が見られます。2019年の松本アウェーからの庭園巡り。数年ぶりに訪れた国指定名勝『光前…

60 木曽の庭園 (3件)

<https://oniwa.garden/category/%e7%94%b2%e4%bf%a1%e8%b6%8a%e5%8c%97%e9>

%99%b8%e5%9c%b0%e6%96%b9%e3%81%ae%e5%ba%ad%e5%9c%92/%e9%95%b7%e9%87%8e%e7%9c%8c%e3%81%ae%e5%ba%ad%e5%9c%92/%e6%9c%a8%e6%9b%bd%e3%81%ae%e5%ba%ad%e5%9c%92/

山村代官屋敷庭園（城陽亭庭園） 木曽

山村代官屋敷について 「山村代官屋敷」は、江戸時代の 280 年間に渡って木曽の地を治めた山村氏のお屋敷。山村家は戦国時代は当地の大名・木曽氏の家臣で、関ヶ原の合戦後は福島関所をはじめとした木曽 11 宿を治めました。この山村代官屋敷は日本遺産「木…

興禅寺庭園 “看雲庭” 木曽

興禅寺庭園「看雲庭」について 「萬松山興禅寺」（ばんしょうざんこうぜんじ）は中山道の福島宿・福島関所から徒歩 10 分程に位置する寺院で、福島関所代官・山村家の菩提寺。鎌倉時代、源義仲（木曽義仲）公を供養する為に木曽氏の子孫によってこの地にあっ…

大宝寺庭園 塩尻

中山道の宿場町として重要伝統的建造物群保存地区の奈良井宿。その中にある大宝寺の庭園は江戸時代中期に作庭されたとされる池泉鑑賞式庭園。（2015 年 10 月訪問。以下の情報は訪問時の情報です。最新の情報は各種公式サイトをご確認ください。） 関連サ…

最後